

年頭のご挨拶

代表理事組合長

松田 登貴也



新年明けましておめでとうございます。

皆様方には平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

日本経済の先行きにつきましては、ウイズコロナ下において内需を中心に回復が続く見通しとなります。個人消費は、コロナ禍で先送りされたサービス関連の需要を中心に回復が顕著になると見込まれます。物価上昇が家計の消費を下押ししていますが、政府の物価高対策がマイナスの影響を和らげると見られます。輸出は、サービスを中心に増加する見通しとなります。世界経済の減速を背景に、財輸出の伸びは緩慢となりながらも、入国者数上限の撤廃や個人旅行の解禁といった水際対策の緩和がインバウンド需要の回復を後押しし、プラス成長が続くと予想されます。

このような経済環境下で、当組合は売上を確保するための取組みを進めるべく、良品の確保に努め、迅速かつ積極的な営業展開を推進してまいりました。またウェブ販売の充実等により先取販売の強化に取り組み、セリの有利販売につなげていくことで業績の拡大を図っております。

次に消費啓発として、東大寺「花まつり」に（一社）日本花き生産協会のご協力のもと、全国より約6,000本の花を提供いただき、奈良県フラワー装飾技能士会に創作協力をいただき、献花させて頂きました。

また橿原神宮において「第14回大和路花と緑のフェスティバル」を県及び関係団体と共催で開催し、「プチガーデンング&フラワーデザインコンテスト」や、児童などを対象とした「オンラインで花といっしょに遊ぼう」、「自然風庭園のモデル展示」を行いました。

また当組合の設立50周年を迎えることができ、特別切花市及び植木市を開市し多数の買参人様にご来場頂きました。最後になりましたが、組合員皆様方の変わらぬご指導ご協力をお願い申し上げます。

令和5年主要行事予定

1. 行事

花き植木農協組合長表彰及び各種品評会表彰式
第52回通常総代会 5月23日(火)
第15回大和路花と緑のフェスティバル 10月上旬

2. 初市・止市

切花 1月 4日(水)・12月27日(水)
鉢花 1月 9日(月)・12月25日(月)
植木 1月17日(火)・12月19日(火)

3. 大市

春の植木大市 3月21日(水)
中元贈答用鉢花大市 6月29日(木)
秋の植木大市 10月17日(火)
秋の鉢花大市 10月19日(木)
歳暮贈答用鉢花大市 11月30日(木)
正月用切花材料大市 (若松等)予定 12月 2日(土)
(オモト)予定 12月 2日(土)
(千両)予定 12月16日(土)

4. 品評会

令和4年度鉢花第3回大口品評会 3月22日(水)
令和5年度鉢花第1回大口品評会 5月17日(水)
令和5年度鉢花第2回大口品評会 11月15日(水)
令和5年度植木品評会 10月 4日(水)
~10月17日(火)
令和5年度花き植木立毛品評会(切花) 9月 1日(金)
~10月31日(火)
春日大社・奈良県切花品評会 予定 9月下旬

5. 仕事はじめ・おさめ

令和5年1月6日(金)・12月28日(木)

誠に申し訳ございませんが、本年、令和5年より年賀状の送付は、控えさせて頂くことになりました。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

鉢花市況

昨年を振り返りますと、一月から二月にかけては晴れ間が少なく寒波による低温期もあり、開花進まず出荷が遅れました。もとよりこの時期の商品は、蕾から開花まで時間を要する物ばかりです。重油高からの加温抑制（コスト削減）も重なり、咲き具合が堅めの入荷が目立ちました。この様な状況下でのセリでは、例年の単価を維持することが出来ず厳しい市況となりました。

3月の送迎シーズンによる舞台花需要も、新型コロナウイルス第6波によるキャンセルの不安により受注は例年より何割か少ない目。中々大輪フアレノの白系が唯一安定していました。野菜苗類は、終始相場が低い水準で推移しました。受注や仕入れ個数が減少傾向。この時期頃から、生産資材や肥料の卸値高騰・供給見通し付かずの話が春商戦としましては、アジサイ類や花壇苗類での育種家作出商品に注目が集まりました。観葉類に関しては、高値安値ではなく農場での青田買いからか、小鉢大鉢問わず品薄状態が続きました。サボテン多肉類も同様、供給が追い付かず納品への対応は困難でした。

秋以降の商談に際して、単価値上げの要望を各地の荷主様から頂戴しました。常態化する値上げの中でしたが、有難いことに秋冬商品の事前ご予約は、例年と変わらず沢山の受注がございました。7月頃からの高温期の影響か、秋商品の入荷遅れが生じました。幸い天候にもめぐまれ、入荷減の中、単価高の取引が続きました。秋商戦も春同様、育種家による品種が高い支持を受け、関連する商材（リーフ類など）までも需要を高めました。ポインセチアをはじめ、鉢物類に関しても、2〜3週遅れての出荷が目立ちました。シクラメン・シンビジウム等のギフト類の取引に関しては、温暖であった十一月はまだまだゆっくりといった仕入れ。十二月に入り気温も平年並みとなり供給が整う中でしたが、買い気を煽るような雰囲気づくりが出来ず、昨年同様の単価まで伸びませんでした。

鉢花課課長補佐 田洲州平

切花市況

昨年は、当組合設立50周年という事もあり、2月には50周年記念切花市を、盛況の中開催させて頂きました。

春から夏にかけて品薄期間はあるものの、比較的潤沢な出荷の中販売させていただくことができたが、お盆商戦から秋彼岸商戦期間にかけて、またそれ以降10月後半に至るまで品薄状態と品目によっては欠品状態が続き価格も高騰しました。11月に入り、高冷地から西南暖地へと産地切り替えのタイミングで、少ない出荷ながらも単価が上昇せず、安値が続きました。燃料代、生産資材の高騰と物流コストの上昇を受け出荷者様のご苦労されている中、価格に反映できない状況。円安や、物流コスト高で輸入商材も高騰し、品薄状態となる。また、販売店様も食費を含む生活必需品の高騰の中、切花という嗜好品を値上げができない状況。これらのジレンマを払拭して、軽減していかねければなりません。

最後になりましたが、本年も出荷者様、買参人様にとつてより良いサービスを提供できる市場となるように担当一同、一層取り組んで参ります。

切花課 坂田三和

花き集出荷情報

新型コロナウイルスの感染が始まって早三年、昨年はウイズコロナの生活が定着し、経済活動もかなり回復した年でありました。しかし、花き業界にとつては一概に良いとは言えない年であったように思われます。まず鉢花関係は行動制限が大きく緩和されたため家庭菜園等の在宅需要が減りました。

当業務でも増加した花壇苗が飽和状態となり、安値になる時期が多々ありました。切花関係は特に、秋からコロナ渦でも比較的安定していた墓参り等の仏花関係の商品の価格が低迷しました。

需要期の年末に掛けては、さらに正月商品の南天の実や熊笹の価格が世間の物価上昇による買い控えの影響も重なり、低調となりました。

暗い話題が多い中、唯一多肉植物だけは安定的な人気を保っています。その理由は、やはり独特なフォルムで多彩な種類があることや、管理がしやすいことです。今日の多様な時代に順応した生活をするZ世代の若者が多く買っていくことを聞くと、その長所が時代ともマッチしているのでしょうか。コロナ渦でネット通販の利用が急速に進んだと言われます。

花き市場も在宅セリや入荷当日の夕方セリへの移行が進みました。出荷者にも早めの上場販売やネット受注出荷を勧め、価格維持への対応をされています。

今年は更なる物価上昇や人手不足、インボイス制度、来年には物流業界の働き方改革関連法の施行があります。当業務も、鉢花では豊明花き様の「イロドリ＊ミドリ」での提案販売の活用をしています。切花では早い情報発信、買いやすい送り状の書き方や荷作りの方法などを薦めています。

切花は関西十市場へ日、火、木の週三回、鉢花は豊明、名港、浜松の中部三市場へ火、金の週二回発送しておりますので、興味があればご遠慮なくご問い合わせくださいませ。

集出荷業務 杉浦康之

組合員のみなさまへ

組合員の登録内容に変更のある場合は、地区の役員にご相談ください。

植木情報 品評会の報告

植木情報

昨年の市況ですが、低木類は10月までは動きが鈍く、中高木につきましても、良品であつても動きが鈍く厳しい状況でした。

全体的に植栽工事が減る中で、葉刈の仕事が多くなり客足も遠のくような流れになっていきます。さらに新型コロナウイルスの影響で生産資材の価格高騰が顕著で、植木生産も例外ではなく、生産量や在庫などにも影響がありました。

相対では一昨年と同様に工事などの大きな物件が減少したままの状態を推移して、高木や庭園樹などの需要も低い上、低木やグランドカバー類の動きも鈍いままでした。

また年々減る生産者の減少については、当組合も県内を巡回させていただいて深刻だと実感しています。理由としては生産資材が高騰しているにもかかわらず植木自体の単価が低迷していることや、後継者不足などの声が多かったです。それに伴い生産量も上がってこず全国的に品薄という商品が多くなつてきています。今後もそういった商品が増えていくと考えられます。

公共工事については、植栽工事が少なく、少ない上に、良品を低単価でという生産者にとつても買参人にとつても厳しい状態です。

昨今、異常気象による自然災害や環境劣化は身近なところのみならず、今や地球規模で頻発しております。これからの災害で劣化を防止し回復する手立てとして今こそ緑の効果と造園による自然環境への取組の力を発揮し駆使していく必要があるのではないのでしょうか。

今後とも皆様のご支援ご協力の程宜しくお願い申し上げます。本年もどうぞよろしくお願ひ致します。

植木課 上坂修也

品評会の報告

令和4年度奈良県花き植木品評会
総出品点数

植木 21点
花き植木立毛(植木) 13点
切花 88点
鉢花(第一回) 28点
鉢花(第二回) 30点

(※以下敬称略)

【植木品評会】

(令和4年10月5日～10月18日)

・農林水産省生産局長賞

・五條市 西本卓央 したれ梅

・奈良県知事賞

・大和郡山市 今西康彰 オタフク南天

・日本植木協会会長賞

・五條市 森田浩司 台杉

・大和郡山市 堀口充弘 オタフク南天

・近畿花き振興協議会長賞

・大和郡山市 佐野正和 マホニアコンフーサ

・奈良県造園業協同組合理事長賞

・大和郡山市 佐野展之 サツキ

・奈良県花き植木農協組合会長賞

・大和郡山市 三橋正和 マホニアコンフーサ

・金賞 今西康彰・銀賞 佐野正和

・銅賞 三橋正和 藤野紀夫 今西康彰

【花き植木立毛(植木)】

(令和4年10月28日)

・農林水産大臣賞

・宇陀市 西谷栄治 台杉

・近畿農政局長賞

・大和郡山市 三橋正和 サツキ

・奈良県知事賞

・五條市 森田浩司 台杉

・奈良県協議会長賞

・大和郡山市 佐野浩之 オタフク南天

・日本植木協会会長賞

・大和郡山市 堀口充弘 オタフク南天

・近畿花き振興協議会長賞

・大和郡山市 今西康彰 サツキ

・奈良県花き植木農協組合会長賞

・大和郡山市 佐野義隆 シラカシ

・金賞 今西貴久・銀賞 三橋小夜子

・銅賞 藤野真一

【春日大社・奈良県切花品評会】

(令和4年9月27日)

・農林水産大臣賞

・平群町 大西一彰 小菊

・近畿農政局長賞

・宇陀市 岡本 清 ダリア

・奈良県知事

・平群町 向井龍太郎 小菊

・春日大社宮司賞

・平群町 城 守 小菊

・華道春日流総裁賞

・宇陀市 樋口重範 ダリア

・春日大社萬葉植物園園長賞

・葛城市 高松智郎 一輪菊

・日本花き生産協会会長賞

・平群町 姓本弘子 赤入才ラン

・日本ばら切花協会会長賞

・下市町 梅本 清嗣 バラ

・奈良県花き植木農業協同組合会長賞

・葛城市 田仲清悟 小菊

・奈良県切花協議会長賞

・平群町 岡田有弘 小菊

・金賞

・岡田大翔 福田遵裕 城美希代 向井志歩

・銀賞

・岡本 清 大西一彰 岡田琉翔

・福田遵裕 姓本弥月 滝本政司

・銅賞

・奥野和徳 梅本清之 岡本和久 亀井保宏

・北川晃生 米田竜祐 中尾論史 吉川友章

・岡本 清 米田日出子 向井龍太郎 大西一彰

【第一回鉢花大口品評会】

(令和4年5月11日)

・金賞

・葛城市 吉村敏樹 ビンカ

・桜井市 細田周作 ペチュニア

・銀賞

・明日香村 平井一広 コリウス

・三宅町 志野孝光 金魚草

・銅賞

・明日香村 平井一広 ペンタス

・葛城市 岡本康宏 日々草

【第二回鉢花大口品評会】

(令和4年11月16日)

・金賞

・桜井市 堀内国洋 パンジー

・銀賞

・奈良市 今中寿士 パンジー

・明日香村 平井一広 Gシクラメン

・銅賞

・五條市 栗本龍哉 アイスキヤスケード

・桜井市 堀内国洋 ビオラ

・橿原市 脇山茂雅 Gシクラメン